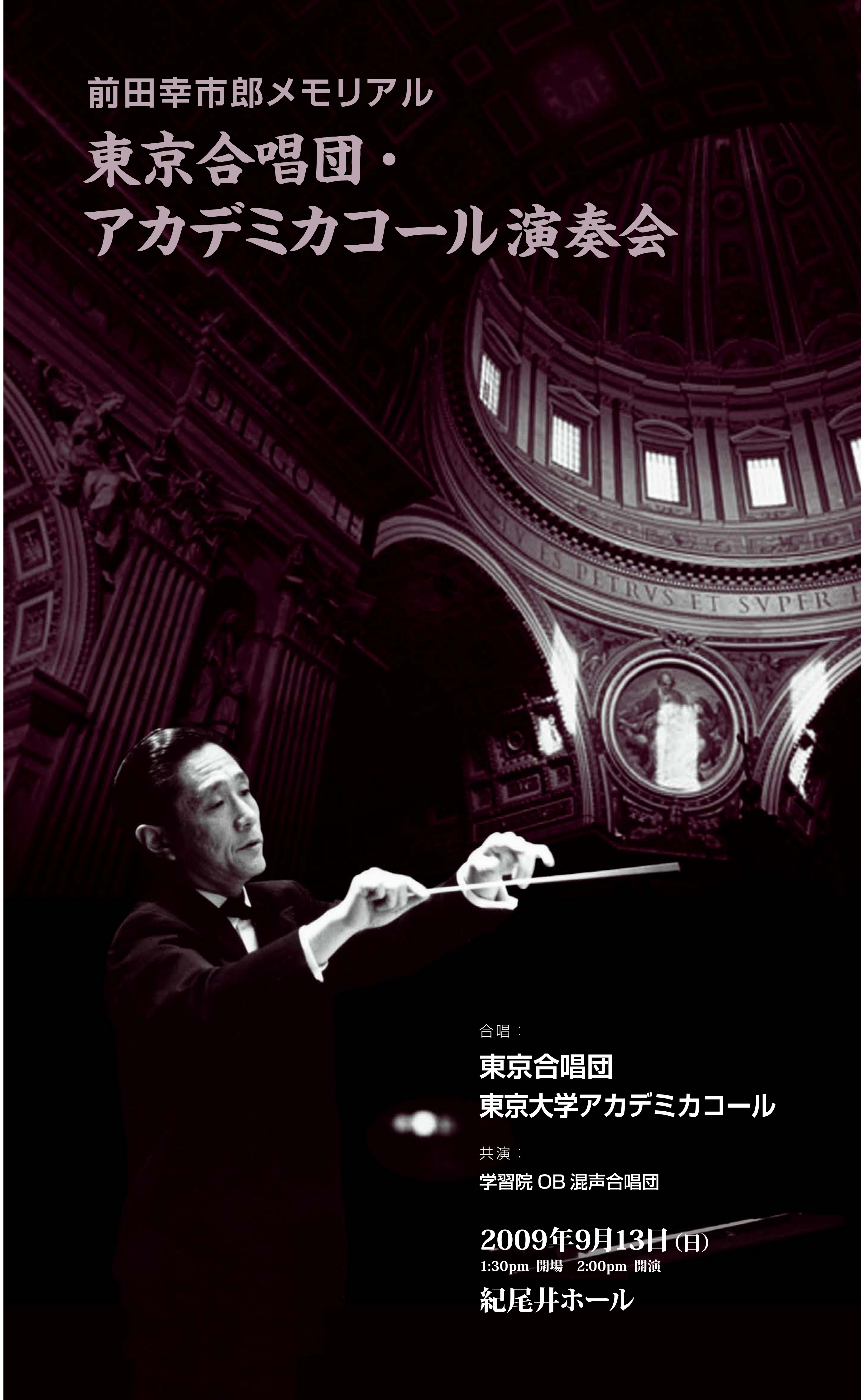


前田幸市郎メモリアル

東京合唱団・アカデミカコール演奏会

合唱：

東京合唱団
東京大学アカデミカコール

共演：

学習院 OB 混声合唱団

2009年9月13日(日)
1:30pm 開場　2:00pm 開演

紀尾井ホール

ご挨拶

本日は皆様お忙しい中、「前田幸市郎メモリアル　東京合唱団・アカデミカコール演奏会」にご来場いただきましてまことに有難うございます。

今年は、東京合唱団生みの親であり、設立当初から当合唱団の指揮者であった前田幸市郎先生が亡くなられて20年になります。
そこでこの節目の年に前田幸市郎先生を偲び、メモリアルコンサートを、同じく当初からお世話になった東京大学アカデミカコールと合同で行うことと致しました。

先生は、1950年代から亡くなられる1989年まで40年近くの長きに亘り、我国を代表する指揮者として数多くのオーケストラ及び合唱団を指揮され、演奏範囲も管弦楽曲、宗教曲、歌劇など極めて幅広く活動されました。
中でも特に宗教音楽については造詣がまことに深く、我国音楽界への功績は極めて大きいものがありますが、例えばケルビーニ、グノー、リスト、ブルックナー、ドヴォルザーク、フォーレ、デュルフレなど多くの作曲家のミサ曲、レクイエムの本邦初演は先生の手により行われています。更に山形大学、横浜国立大学など多くの大学で教鞭をとられ、音楽教育の振興にも尽くされるなど、戦後我国クラシック音楽界の発展に多大の貢献を果たされました。

本日は、先生のご令息で東京合唱団の音楽監督である前田幸康先生の指揮により、幸市郎先生にとっても私共にとっても大変ゆかりの深いフォーレのレクイエムを、亡き幸市郎先生への深い敬慕と追悼の気持を込めて歌いたいと思います。
又、アカデミカコールと合同でシューベルトのミサ曲ト長調を演奏いたします。
どうか最後までごゆっくりお聴きください。

最後になりましたが、本日の演奏会の開催にあたり、「前田幸康サポーターズクラブ」ならびに「学習院OB混声合唱団」より多大なご支援、ご協力をいただきました。
本紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

東京合唱団団長　岸　　柾文

ごあいさつ

時の移ろうのはまことに早いもので、私たちが「東京大学音楽部コールアカデミー」の現役在籍時代に薫陶を受けた前田幸市郎先生が逝去されて今年で 20 年を迎えることになりました。かねてより、没後 20 年の記念として幸市郎先生ゆかりの合唱団による追悼コンサートを実施したいと考えておりましたところ、同じく、先生に長くご指導いただいてきた東京合唱団より、合同でのイベント開催の打診があり、団員に諮ったところ、こぞって賛同をいただき、本日の「前田幸市郎メモリアル　東京合唱団・アカデミカコール演奏会」の実現に至った次第です。

私たち、アカデミカコールは、現在、コールアカデミーのOBを中心に 90 名近くの団員を擁して、ここ 10 年あまりコンスタントに演奏活動を続けてきましたが、とりわけ今回の演奏会には一段と精力的に取り組んでまいりました。曲目についても、幸市郎先生が本邦初演を成し遂げられ、また、その後もコールアカデミー、アカデミカコールの持ち曲として何度も取り上げてきたケルビーニ作曲「レクイエム二短調」を、しかも、幸市郎先生の御子息である前田幸康先生のタクトで演奏することになり、団員一同、この上なく張り切っております。本日、その成果を自信を持ってご披露することにより、我々の幸市郎先生への思いを少しでも皆様がたに感じていただくことができれば無上の幸せです。

また、天国におられる幸市郎先生、どうか、私たちの精いっぱいの演奏に耳を傾けられ、「おう、君たちも伊達に年を重ねただけじゃなくて、昔より少しはましな演奏を聞かせてくれるじゃあないか。」と、あの語り口でお話しいただけることを期待しております。

最後になりますが、本日は皆様お忙しい中、本コンサートに足をお運びいただきましたことに心よりお礼申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

アカデミカ・コール幹事長　岩本　宗孝

アカデミカコール：
L. ケルビーニ「レクイエム 二短調」
東京合唱団：
G.U. フォーレ「レクイエム 二短調」Op.48
合同演奏：
F. シューベルト「ミサ曲　ト長調」D167

第一部

L.ケルビーニ「レクイエム　二短調」

休憩

第二部

G.U.フォーレ「レクイエム　二短調」Op.48
F.シューベルト「ミサ曲　ト長調」D167

独　唱 ○ソプラノ　平松 英子
○テノール　鈴木　准
○バリトン　太田 直樹
オルガン ○草間 美也子
指　揮 ○前田 幸康
合　唱 ○東京合唱団
東京大学アカデミカコール
学習院 OB 混声合唱団
管弦楽 ○KMG 管弦楽団

Yukiyasu Maeda Director & Conductor

前田 幸康
（指揮）

国立音楽大学卒業。チェロを故小沢弘、故黒沼俊夫、小野崎純の各氏に師事。N響、日フィル等のオーケストラでフリーのチェリストとして活躍し、東京ゾリステン等の室内楽にも力を注ぐ。現神奈川フィルハーモニー交響楽団の前身であるロリエ管弦楽団を故金子登、故前田幸市郎と設立し、初代チェロ第一首席奏者を務める。
1973年に渡欧し、Prof.マルティン・オースタータークに師事。1974年1月よりフライブルク市立交響楽団のメンバーとなる。故前田幸市郎から指揮の指導を受け、1990年以来、日本において活動をしている。W.A.モーツァルト「レクイエム」、J.G.L.モーツァルト「ミサソレムニス」（日本初演）、グラウンのオラトリオ「イエスの死」（日本初演）、ブラームス「ドイツレクイエム」、J.S.バッハ「ミサ曲ロ短調」「ヨハネ受難曲」、フォーレ「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」、メンデルスゾーン「パウロ」等を東京合唱団の音楽監督として指揮する。1985年よりプロアルテ・カンマー・オーケストラ・フライブルクの首席チェロを務めた。同年にまたフライブルク市よりカンマームジーカーの称号を贈られ、1989年には外国人としては最高の功労賞メダルを同市より授与された。上野学園大学教授。

Eiko HIRAMATSU Soprano

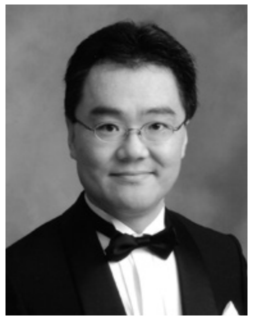
平松 英子
（ソプラノ）

東京藝術大学、同大学院修了。ドイツ学術交流会（DAAD）奨学生としてミュンヘン音楽大学留学。在学中ヘラクレスザール「ヨハネ受難曲」でデビュー。シレスヴィック・ホルシュタイン、ティボール・ファルガ、ミュンヒナー・ビエンナーレほか多くの音楽祭に招かれ、ヘルマン・プライ、ペーター・シュライアー他と共演し高い評価を得る。ドイツでの十数年の活動後帰国。オペラ「魔弾の射手」「フィガロの結婚」「ドン・ジョバンニ」「脳死をこえて」他に出演。バッハから現代曲までを歌いこなす柔軟な音楽性は、日本を代表するリリック・ソプラノとして、今は亡きジュゼッペ・シノーポリをはじめ国内外の多くの指揮者の賞賛の的となっている。CD「マーラー　大地の歌」「湯浅譲二　美しいこどもの歌」「細川俊夫　恋歌」他多数。ジロー・オペラ新人賞受賞。現在東京藝術大学准教授、フェリス女学院大学講師。

Jun SUZUKI Tenor

鈴木　准
（テノール）

北星学園大学文学部卒業。東京藝大声楽科卒業。卒業時、松田トシ賞ならびにアカンサス音楽賞受賞。同大学院修士修了。宮本亜門演出『コジ・ファン・トゥッテ』フェランド役で華々しく二期会デビュー。『魔笛』タミーノ役は兵庫県芸術文化センター公演や日生劇場公演でも絶賛されるなど当り役。神奈川県民ホール『愛の白夜』（一柳慧作曲、2006年世界初演）にヨーニス役で出演、明瞭な日本語による歌唱により好評を博した。同オペラは、改訂決定版がこの5月に再演された。宗教曲では第49、50回東京藝術大学・朝日新聞社共催ヘンデル「メサイア」以来、バッハ「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」エヴァンゲリスト、モーツァルト「レクイエム」など多くに出演。1999年よりバッハ・コレギウム・ジャパンの国内外の公演に参加し、スペイン公演などでソリストをつとめた。日本声楽アカデミー会員。二期会会員。



Naoki OTA Baritone

太田 直樹
（バリトン）

東京藝術大学声楽科卒業、同大学院修了。シュトゥットガルト音楽大学修了。オペラ研修所第８期修了。二期会、東京室内歌劇場公演、新国立劇場、東京オペラ・プロデュース等のオペラに出演するほか、ドイツ歌曲を中心としたリサイタルや演奏会、バッハ、ヘンデル、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、フォーレ、ブラームス等の宗教曲の独唱を多くつとめている。近年では06年オペラ「ゼッキンゲンのトランペット吹き」（日本初演）、スクロヴァチェフスキ指揮ザールブリュッケン放送管弦楽団「第九」、07年東京室内歌劇場「アルチーナ」、ロジェストヴェンスキ指揮読売日本交響楽団定期演奏会「イオランタ」、まつもと市民オペラ「こうもり」、「サントリーホールの第九」、08年東京室内歌劇場「夜長姫と耳男」、横浜シティオペラ「魔笛」などに出演。国立音楽大学、桐朋学園芸術短期大学、東京都立芸術高校非常勤講師、二期会会員、東京室内歌劇場会員。

Miyako KUSAMA Organ

草間 美也子
（オルガン）

フェリス女学院短期大学音楽科卒業。同専攻科修了。オルガンを奥田耕天、ピアノを大島正泰、小林道夫、岸川基彦の各氏に師事。1970年万博記念オルガンコンクールで最高位入賞。その後ドイツのケルンに留学、ミヒャエル・シュナイダー氏に師事。帰国後、ＮＨＫ交響楽団、新日フィル、読売日響などのオーケストラと共演多数。
サヴァリッシュ、マズア、ブロムシュテット、アルブレヒトなどの指揮者のもと、宗教曲を主に多くの演奏会に出演。海外でのコンサートも多く、ケルン、ベルリン、テュービンゲン、ライプツィヒなどで独奏・伴奏を行なう。現在、恵泉女学園オルガニスト、銀座教会音楽主任。

KMG 管弦楽団
東京合唱団の創設者、　故前田幸市郎氏により1982年にKMG合奏団として組織された。東京近郊の第一線クラスのソリストにより結成され、名人芸的なアンサンブルを醸し出す。特にバロック音楽では高い水準を維持している。

ケルビーニのニ短調レクイエムを本邦初演したころのこと

東京大学コールアカデミー昭和40年卒　塩 谷 隆 英

ケルビーニのニ短調レクイエムがオーケストラ伴奏の完全な形で本邦初演されたのは、1963年12月14日に新宿厚生年金会館において開かれた東京大学男声合唱団コールアカデミー（略称「コール」）の第10回定期演奏会のステージであった。指揮は、同合唱団の常任指揮者であった故前田幸市郎先生で、伴奏は、コールアカデミーと同じ音楽部に属して、その10年前まで一緒に定期演奏会を開いてきた東京大学管弦楽団だった。練習指揮は、昭和38年度の学生指揮者だった勝部素行氏（コール昭和40年卒）、練習ピアノ伴奏は故中内（当時は日高姓）詢子さんであった。当日のステージ写真には、五段の山台にグレーのブレザー姿の113人のコール部員とステージ一杯に広がるフルオーケストラの中央の指揮台に燕尾服姿の前田先生がタクトを振る姿が写っている。前田先生は、まだ40代の始めであったが、すでにマエストロの風格を帯び、端正な指揮棒に血気盛んな学生たちもみな従順であった。

わが国が高度経済成長によってようやく貧困から脱却しようとする時期に、純粋アマチュアの学生合唱団とオーケストラが協力してこのようなステージを実現させたことは、コールの長い歴史の中でも画期的なことであったと思う。この演奏は、東芝音楽工業株式会社が製作した赤いLP版のレコード（レコード番号LR－19）に録音されている。これは、コールOBで同社の役員をされていた故菊地維城氏（昭和21年卒）のご配慮によって、同社の本邦演奏者によるクラシック音楽の最終版としてレコード化されたものである。

この演奏がオーケストラ伴奏つきでの本邦初演であるということは、当日のプログラムの管弦楽団紹介中に明記されている。東大管弦楽団は、当時既に誕生以来40数年の歴史を持っており、本邦初演曲は、バッハの管弦楽組曲第2番、ベートーベンのヴァイオリン協奏曲ほか60曲余りある、という紹介に続いて、「今日演奏するケルビーニのレクイエムのオーケストラのパートも本邦初演だと思う」とある。実は、同レクイエムの合唱パートも、1960年12月10日に文京公会堂で開かれたコールアカデミー第7回定期演奏会において本邦初演されているのである。指揮は前田幸市郎先生、ピアノ伴奏は有馬公子さんであった。この演奏は、日本グラモフォンのLPレコード（レコード番号JP－163）になって残っている。

このステージが実現するまでには多くの問題が横たわっていたが、団の責任者だった私が苦労した記憶はほとんどない。人々の善意と各役員の担当分野における献身的な努力と幸運とが重なって、問題はことごとく克服された。克服すべき問題の第一は、伴奏のオーケストラをどうするかであった。貧乏学生合唱団にプロのオーケストラを雇う余裕はとてもなかった。東大管弦楽団でビオラを弾いていた高校時代の友人の仲介で責任者の桝田淳二氏に直談判を試みると、彼は快く団へ持ち帰って検討することを約束してくれた。団員総会では反対意見もかなりあったようだが、最後にコンサートマスターの岩淵正紀氏の一言で協力しようということになったそうだ。彼等との交流は今でも続いている。

第二は、指揮者の問題であった。多忙な前田先生に断られれば、この企画は成立しなかった。当時アマチュアの合唱指揮者でオーケストラを指揮できる人はほとんどいなかったからである。東大病院の近くの喫茶店で前田先生におそるおそる指揮をお願いすると、先生は、「それはいい。君たちにオーケストラ伴奏で歌う感激を味合わせてやりたいといつも思っていたのだよ」と二つ返事で快諾されたのだった。前田先生のこの演奏への意気込みは、当日のプログラムへ寄せられた次のような一文で窺い知ることができる。「今回東大オーケストラの御協力を得て、ケルビーニのレクイエムを演奏できるようになったのは私としても非常に嬉しいことであり、又コールにとっても大変有意義なことだと思う。しかし単に10回という回数の魔術にまどわされることなく、オーケストラとコーラスが一体となって立派な演奏をするということを心がけたいものである。」

第三に、当時オーケストラパート譜が日本にはなく、ドイツから輸入しなければならなかったため、その費用負担をどうするかという問題を解決する必要があった。団内で侃々諤々の議論をしている最中のある日、学生課気付けでコール宛に現金書留が届いた。開けてみると、コールOBで大学院在学中に亡くなった故渡部純氏（コール昭和36年卒）の父君である渡部信夫氏から「息子が生前熱心に打ち込んで大変お世話になったコールのために使って下さい」という手紙とともに、当時の授業料の数倍もの現金が同封されていた。それを押し頂いて、勝部氏とともに本郷通りの壱岐坂上にあったアカデミア楽譜店へ走ったのだった。

前田先生は、1954年から1989年までの35年間コールの常任指揮者を務めていただいたわけであるが、学業の合間の趣味的活動をしている我々学生合唱団に対しても、音楽の本質を伝えるための基礎的な音楽テクニックを叩き込むことにおいては、音大生に対するのと同じような情熱を注がれた。音楽の本質を巧みな比喩によって伝えようとされた前田先生の言葉が、そのとき我々にすべて理解できたわけではなかったが、年を経ておりに触れフッと「そういうことだったのだ」と合点が行くことがある。たとえば、ニ短調レクイエムのLacrimosa（涙の日なるかな）の部分を「（君たちが使う安手のではない）上等のバスタオルを熱湯に浸して両手でジューっとしぼるような気持ちで」とか、supplicanti parce（乞い願う我を許し給え）の中声部は、「鐘の音を鳴らせ。春霞に鳴る鐘でなくて、冬の夜空に鳴る鐘のような響きが欲しいね」とか、Agnus Deiの最終部lux perupetua luceat eis（絶えざる光を彼等の上に照らし給え）を「太陽が沈んだ直後に空一杯に広がる光をふり仰ぐように」と教えて下さった意味が、最近になって少し理解できるようになった気がする。

コールは、音楽的な実力と人間的な魅力を兼ね備えた本当にすばらしい指揮者をいただいたものだ。前田先生は、これからも我々の終生の教師であり続けると思う。今回前田幸市郎先生の没後20年を記念してケルビーニのニ短調レクイエムを歌えるのは、前田門下生一同の大きな喜びである。とりわけ、先生のご長男であるとともに、音楽の弟子として基礎的な音楽テクニックを十二分に叩き込まれて幸市郎先生譲りの気品ある音楽作りに精魂を傾けておられる前田幸康先生の指揮によって歌うことができるのは、たとえようもない幸せである。もちろん本邦初演をした113人のうちの多くの仲間も馳せ参じて、その後のそれぞれの人生の年輪を重ね合わせた入魂のハーモニーを響かせるはずなので、しばしの間耳を傾けていただきたい。

Ⅰ. Introitus et Kyrie	入祭唱および主憐唱
Requiem aeternam dona eis, Domine,	主よ、彼らに永遠の安息を与え給え。
et lux perpetua luceat eis;	又　彼らの上に絶えざる光を照らし給え。
te decet hymnus Deus, in Sion,	天主よ、シオンにて主は讃美せらるべきかな。
et tibi reddetur votum in Jerusalem:	又　人はイエルサレムにて主に誓いを果たさん。
exaudi orationem meam,	聞き入れ給え　わが祈りを
ad te omnis caro veniet.	全ての肉身は主に来たらん。
Requiem aeternam dona eis, Domine,	主よ、彼らに永遠の安息を与え給え。
et lux perpetua luceat eis,	又　彼らの上に絶えざる光を照らし給え。
Kyrie eleison, Christe eleison,	主よ、憐れみ給え。キリストよ、憐れみ給え。
Kyrie eleison.	主よ、憐れみ給え。
Ⅱ. Graduale	昇階唱
Requiem aeternam dona eis, Domine,	主よ、彼らに永遠の安息を与え給え。
et lux perpetua luceat eis;	彼らに絶えざる光を照らし給え。
in memoria aeterna erit justus,	正しき者は永遠に記念せられん。
ab auditione mala non timebit.	悪しき音ずれに恐るることなからん。
Ⅲ. Dies Irae	続唱
Dies irae, dies illa	かの日こそは怒りの日なり。
solvet saeclum in favilla	世界を灰に帰せしめん。
teste David cum Sibylla.	ダビデ王とシビラは証言せり、
Quantus tremor est futurus,	怖れ戦きは、如何ならん
quando judex est venturus,	やがて審判者来りまして
cuncta stricte discussurus.	万ずの事おごそかにただし給わば。
Tuba mirum spargens sonum	ラッパの妙なる音ひびくなり
per sepulcra regionum	全土の墓に。
coget omnes ante thronum.	集められん人皆玉座の下に。
Mors stupebit et natura,	死は驚かん、また自然も。
cum resurget creatura,	そは審判者に答えんとて
judicanti responsura.	造られたる者蘇えればなり。
Liber scriptus proferetur.	全てのことがらを含みし
in quo totum continetur,	書き記されし書物はさし出だされん。
unde mundus judicetur.	それによりて世界は審判せらるるなり。
Judex ergo cum sedebit,	審判者かくて出でて座し給うや、
quidquid latet, apparebit:	ことごとく隠れたることあらわれ、
nil inultum remanebit.	一つとして報いられざることなからん。
Quid sum miser tunc dicturus ?	その時哀れなるわれ
Quem patronem rogaturus,	果たして何を言い、誰をか弁護者と仰ぐべき。
cum vix justus sit securus ?	そは正しき者すら心やすらかならざればなり。
Rex tremendae majestatis,	仰ぐも畏きみいつの大王、救わるべき者を
qui salvandos salvas gratis,	恵みもて救い給えば
salva me, fons pietatis.	われを救い給え、慈悲の泉よ。
Recordare, Jesu pie,	思い給え、慈悲深きイエズスよ。
quod sum causa tuae viae,	天下り給いしは、そもわがためなりしを。
ne me perdas illa die.	かの日にわれを滅ぼし給うことなかれ。

Quaerens me sedisti lassus,	われを尋ねんとて疲れて座し給い、
redemisti crucem passus:	われをあがなわんとて十字架の極刑を忍びしかば、
tantus labor non sit cassus.	かかる御苦労を空しくし給うことなかれ。
Juste judex ultionis	きびしく罰し給う正義なる裁き主よ、
donum fac remissionis	赦しの恵みを施し給え
ante diem rationis.	罪の清算の日の至らざらん間に。
Ingemisco tanquam reus,	われ罪人の如くなげくなり。
culpa rubet vultus meus:	わが顔は罪を恥じて赤らむ。
supplicanti parce, Deus.	天主よ、平伏し願うわれを惜しみ給え。
Qui Mariam absolvisti,	主はマグダラのマリアを赦し
et latronem exaudisti,	又盗賊の願いを聞き入れ給いしかば、
mihi quoque spem dedisti.	われにも希望を抱かしめたり。
Preces meae non sunt dignae:	わが願いはふさわしからず。
sed tu bonus fac benigne,	されど主よ、おん慈悲もて、
ne perenni cremer igne.	われを永遠の火に焼き給うことなかれ。
Inter oves locum praesta,	羊のうちにわれを置き給え。
et ab hoedis me sequestra,	しかして牡山羊よりわれを離し
statuens in parte dextra.	右方に立たしめ給え。
Confutatis maledictis,	呪われし者たちが口をふさがれ
flammis acribus addictis,	烈しき炎に引き渡されてより、
voca me cum benedictis.	われを招き給え、祝せられし者と共に。
Oro supplex et acclinis,	われ平伏してひとえに願い奉る
cor Contritum quasi cinis:	心は灰の如く砕けて。
gere curam mei finis.	心にかけ給え、わが終わりをば。
Lacrimosa dies illa,	涙の日なるかな、かの日は
qua resurget ex favilla	灰より蘇えらんかの日は。
judicandus homo reus.	人は罪故に審判を受くるなり。
Huic ergo parce, Deus,	されば天主よ、彼を惜しみ給え。
pie Jesu Domine,	慈悲深きイエズスよ、主よ、
dona eis requiem!	彼らに安息を与え給え。
Amen!	アーメン。

Ⅳ. Offertorium	奉献唱
Domine Jesu Christe! Rex gloriae!	主、イエズス=キリストよ。栄光の王よ。
Libera animas omnium fidelium	全ての死にたる信者の霊魂を
defunctorum de poenis inferni	陰府の刑罰と
et de profundo lacu.	深き淵より救い給え。
Libera eas de ore leonis,	彼らを獅子の口から救い給え
ne absorbeat eas Tartarus, ne cadant in obscurum:	彼らが陰府に飲み込まれず、また暗闇に陥らぬよう。
Sed signifer sanctus Michael	旗手なる聖ミカエルが
repraesentet eas in lucem sanctam,	彼らを聖なる光に導かんことを。
quam olim Abrahae promisisti,	これぞかつて主がアブラハムに約し給い
et semini ejus.	又その裔にも約し給いしものなり。
Hostias et preces tibi, Domine,	主よ、おん身にいけにえと祈りを
laudis offerimus:	賛美としてわれら捧げ奉る。
Tu suscipe pro animabus illis,	主よ、これを受け給え、彼の霊魂のために。
quarum hodie memoriam facimus:	即ち今日、われら記念する所の霊魂のために。
fac eas, Domine, de morte	主よ、彼らを死より、
transire ad vitam,	生に移させ給え。
quam oliln Abrahae promisisti,	これぞかつて主がアブラハムに約し給い
et semini ejus.	又その裔にも約し給いしものなり。

Ⅴ. Sanctus	三聖唱
Sanctus, Sanctus, Sanctus,	聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな
Dominus, Deus Sabaoth	主にまします万軍の天主よ。
pleni sunt coeli	天と地は
et terra gloria tua.	主の栄光に満ちみてり。
Hosanna in excelsis.	いと高き所に賛美あれ。
Benedictus, qui venit	来たり給うものは主の名によりて
in nomine Domini.	祝せられさせ給え。
Hosanna in excelsis.	いと高き所に賛美あれ。

Ⅵ. Pie Jesu	ピエ・イエス
Pie Jesu, Domine,	慈悲深きイエズスよ、主よ、
dona eis requiem.	彼らに安息を与え給え。
Pie Jesu, Domine,	慈悲深きイエズスよ、主よ、
dona eis requiem sempiternam	彼らに永遠の安息を与え給え。

Ⅶ. Agnus Dei	神羊唱
Agnus Dei, qui tollis	世の罪を除き給う
peccata mundi,	天主の子羊よ、
dona eis requiem.	彼らに安息を与え給え。
Agnus Dei, qui tollis	世の罪を除き給う
peccata mundi,	天主の子羊よ、
dona eis requiem sempiternam.	彼らに永遠の安息を与え給え。
Lux aeterna luceat eis. Domine,	主よ、彼らに永遠の光を照らし給え。
cum sanctis tuis in aeternum,	主は主の聖者と共に永遠に
quia pius es.	慈悲深ければ。
Requiem aeternam dona eis, Domine,	主よ、彼らに永遠の安息を与え給え。
et lux perpetua luceat eis.	又、彼らに絶えざる光を照らし給え。

東京大学音楽部　コールアカデミー第10回定期演奏会　38.12.14　於 厚生年金ホール

フォーレレクイエム

宮本靖子

東京合唱団！　なんと懐かしい響きでしょう。創立から先生のご帰天までの35年間の東京合唱団は幸せすぎるほどの、酋長こと前田幸市郎先生ご指導の団員生活でございました。

「音色は知能指数に比例するってわかるー?」このようなお話は枚挙に暇がなく、アナリーゼの充分な基礎的、専門的なご指導の中でユーモアたっぷりに、しかしかなり辛辣なご注意は、先生の暖かいお優しいお人柄にカモフラージュされての練習でございました。

創立当初のヴェルディレクイエムから、最後になりましたバッハの昇天祭・復活祭オラトリオまで歌いました大曲、名曲は8曲の本邦初演を含めてどのくらいあったでしょうか。音楽の美しさ、深さ、素晴らしさを沢山教えて下さいました。

かつて本邦初演をされましたフォーレレクイエムは、東京合唱団では5回ほど歌いましたが、昭和31年のフォーレはその年の合唱界の良い演奏の十指に入り、レコードも作ったのです。当時240円のレクヰエムと書かれた楽譜は、今日にするだけでご注意の酋長節が聞こえてまいります。ラストのソプラノパートでは「天上の楽園の澄んだ明るい響きでなきゃー、マ、無理でしょうねー」と。しかし、本番で前奏が聞こえてきますと柔らかい先生の棒につられて歌い出せたのです。でもあの瞬間はもう2度と来ないのです。先生のご昇天は早すぎました。

35年間の金科玉条のお教えはお話ししきれません。休止符を音楽すること、言葉の語尾でリズムを作ること、などなど。忘れえぬご指導を旨とし今なお老骨に鞭打ち歌っておりますが、天国で「安らかな眠りを邪魔するナ!」と酋長節が聞こえてきそうです。でも先生！これはご恩返しのつもりでございます。お礼の言葉が見当たりません。フォーレを聴きながら懐かしいお声が聞こえてまいります。あのラストのご注意とともに。

（もと東京合唱団）

Ⅰ. Introitus	入祭唱
Requiem aeternam dona eis, Domine:	主よ、永遠の安息をかれらに与えたまえ。
et lux perpetua luceat eis.	絶えざる光をかれらの上に照らしたまえ。
Te decet hymnus, Deus, in Sion,	神よ、主の讃美をふさわしくうたえるのは、
et tibi reddetur votum in Jerusalem:	シオンにおいてである。イェルサレムでは、
exaudi orationem meam:	主に犠牲を捧げたてまつる。すべての肉体の
ad te omnis caro veniet.	むかうべき主よ、われらの祈りを聴きたまえ。

Ⅱ. Kyrie	キリエ
Kyrie eleison.	主よ、憐れみたまえ。
Christe eleison.	キリストよ、憐れみたまえ。
Kyrie eleison.	主よ、憐れみたまえ。

Ⅲ. Offertorium	奉献唱
Domine Jesu Christe, Rex gloriae,	栄光の王、主イエス・キリストよ、
libera animas (omniium fidelium)	死んだ信者全ての霊魂を
defunctorum de poenis inferni,	地獄の罰と底なき深淵とから救い出し、
et de profundo lacu:	それらを獅子の口から解き放ち給え。
(libera eas) de ore leonis,	彼らの霊を冥府におとさず、
ne absorbeat (eas) tartarus,	闇に逃げたもうな。
ne cadant in obscurum: (sed signifer...)	（しかし、旗手ミカエラが・・・）
Hostias et preces tibi, Domine,	主よ、称賛の犠牲と祈りとを我らは
laudis offerimus.	主に捧げたてまつる。
tu suscipe pro animabus illis	今日、記念する霊魂の為に
quarum hodie memoriam facimus:	これを受けいれたまえ。
fac eas, Domine, de morte	主よ、かれらを死から生命へと
transire ad vitam,	移したまえ。
quam olim Abrahae promisisti,	主がその昔アブラハムとその子孫とに
et semini ejus.	約束したもうたその生命へ。

Ⅳ. Sanctus	感謝の訣歌
Sanctus, Sanctus, Sanctus,	聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
Dominus Deus Sabaoth.	万軍の神なる主。
Pleni sunt coeli et terra gloria tua.	主の栄光は天地に満つ。
Hosanna in excelsis.	天のいと高きところにホザンナ。
Sanctus.	聖なるかな。

Ⅴ. Pie Jesu	ピエ・イエズ
Pie Jesu Domine, dona eis requiem,	主よ、やさしいイエスよ、かれらに安息を与えたまえ。
Dona eis requiem, sempiternam requiem.	かれらに休息を、永遠の休息を与えたまえ。

Ⅵ. Agnus Dei	アニュス・デイ
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,	神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
dona eis requiem,	かれらに休息を与えたまえ。
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,	神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
dona eis requiem,	かれらに休息を与えままえ。
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,	神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
dona eis requiem sempiternam.	かれらに永遠の休息を与えたまえ。
Lux aeterna luceat eis, Domine,	永遠の光明をかれらの上に輝かせたまえ
Cum sanctis tuis in aeternum, quia pius es.	主のもとにある諸聖人とともに、慈悲深き主よ。
Requiem aeternam, dona eis, Domine,	主よ、永遠の休息をかれらに与え、
et lux perpetua luceat eis.	絶えざる光をかれらの上に照らしたまえ。
Cum sanctis tuis in aeternum, quia pius es.	主のもとにある諸聖人とともに、慈悲深き主よ。

Ⅶ. Libera me	リベラ・メ（赦祷文）
Libera me, Domine, de morte aeterna,	主よ、かの恐ろしい日に、
in die illa tremenda:	わたしを永遠の死から解き放ちたまえ。
Quando coeli movendi sunt et terra:	天地が震い動くその日。
Dum veneris judicare saeculum per ignem.	主がこの世を火をもって審く為に来られたもう時、
Tremens factus sum ego, et timeo,	わたしは、来るべき審きと、
dum discussio venerit, atque ventura ira.	そこにくだされる怒りとをおもい、ふるえおののく。
Dies illa, dies irae, calamitatis et miseriae,	その日こそ怒りの日、禍いの日、悩みの日、
(dies illa,) dies magna, et amara.	大いなる悲嘆の日。
Requiem aeternam, dona eis, Domine:	主よ、永遠の休息をかれらに与え、
et lux perpetua luceat eis.	絶えざる光をかれらの上に照らしたまえ。
Libera me, Domine, de morte aeterna	主よ、かの恐ろしい日に、
in die illa tremenda:	わたしを永遠の死から解き放ちたまえ。
quando coeli movendi sunt et terra:	天地が震い動くその日。
Dum veneris judicare saeculum per ignem.	主がこの世を火をもって審く為に来られたもう時、
Libera me, Domine.	主よ、わたしを解き放ちたまえ。

Ⅷ. In paradisum	楽園にて
In paradisum deducant (te) Angeli:	天使たちが（あなたを）天国につれていくように。
In tuo adventu suscipiant te martyres,	あなたがそこに到着する時、
et perducant te in civitatem sanctam	殉教者たちが出迎え、
Jerusalem.	イェルサレムの聖なる都に導くように。
Chorus Angelorum te suscipiat,	天使のむれがあなたを出迎え、
et cum Lazaro	かつて貧しかったラザロの入った
quondam paupere aeternam habeas requiem.	その永遠の休息に導きたまわんことを。

シューベルト　ミサ　第２番　ト長調　作品 167

山中清孝

この曲は、Kyrie、Gloria、Credo、Sanctus、Benedictus、Agnus Dei からなるとても旋律の美しい曲で、有名な曲である。特別な曲目解説は不要であろう。今回は私と前田幸市郎先生の関係、この曲と前田幸市郎先生との関係等について書かせて頂くこととする。

私が学習院大学に入学したのは昭和42年（1967）年である。指揮者の前田幸市郎先生、ピアニストの長恭子先生と初めてお逢いしたのもこの年である。大学１年のときベートーベンの「ハ長調　ミサ」、２年のときは同じくベートーベンの「交響曲第９番合唱付き」を演奏した。この演奏会は当時の皇太子殿下ご夫妻をお招きしてのものだった。そして３年の担当学年（花形さんと一緒）のとき、フォーレの「レクイエム」を演奏した。ソロはソプラノ大月早苗、バリトンは芳野靖夫である。この時の演奏はキングレコードよりLP盤で有料頒布された。またフランス大使館に後援をしてもらうため、役員３人で大使館へ押しかけたのも、今はいい思い出の一つである。昭和42年から44年は学習院のオーケストラとの合同演奏会の他に毎年もう1ステージあった。他ならぬ東京合唱団との合同（昭和43,44年は藤原歌劇団との合同でもあった）である。昭和42年がデュルフレの「レクィエム」（本邦初演）、昭和43年がヘンデルの「メサイア」、昭和44年がベルディの「レクィエム」である。デュルフレの「レクィエム」は本邦初演ということもあり、NHKFMで渡辺学而先生の解説で放送された。たまたま聴いていたラジオで自分たちのコンサートで歌った曲が流れたときの感動は鳥肌ものであった。学生の身分なのにABC交響楽団、東京フィル、藤原歌劇団などとの共演ができたこと、成田絵智子、鈴木寛一、栗林義信などの有名なソリストと共演できたことは幸福であった。また藤原義江という「歴史上の人物」の声を壇上で聴けたのも今となってはいい思い出である。前田先生の音楽界での交際範囲の広さ、パワーに大変驚いた。宗教曲ではまだ当時40代なのに、すでに権威的存在であったと思う。

昭和46年正月、学習院の音楽部の総務、会計、庶務の３委員長は鎌倉の前田邸に招かれた。先生自らが料理やお酒を運ばれたので恐縮してしまった。いつものユーモアあふれる先生とはまた違って、明るいリラックスされた先生がそこにはあった。勿論先生独自のジョークであろうが、当時会計委員長をしていた私に、「僕は３人の中で君が一番好きだよ」と言われたことが忘れられない。

さてこのシューベルトの「ミサ　第２番　ト長調」であるが、数百曲先生が指揮された曲の中で一番最後に演奏された曲である。日時は平成元年６月23日14時から16時、場所は学習院百周年記念会館正堂であった。ソリストはソプラノ阿部郁子、テノール佐野成宏、バス末吉利行、オルガン島田麗子、演奏は学習院の現役の混声合唱団、管弦楽団である。先生は体調が悪く、背もたれのある椅子に腰かけられての指揮であった。当時私は学習院OB混声合唱団の委員長で、団長の高橋弘さんと客席でハラハラしながら鑑賞していたが、演奏が終わると同時に２人で楽屋に行き先生とお話をした。９月のOB混声合唱団の演奏会（上野学園石橋メモリアルホール）でメンデルスゾーンの「ラウダ・シオン」の指揮をお願いしてあったのでその確認に伺ったのである。先生は思ったよりはお元気で「よろしく」と言われ握手をしてお別れをしたが、これが最後になってしまった。９月17日のコンサートは先生のお弟子さんの１人である野村慎一郎に指揮をお願いした。先生はこの日に危篤となり、逝去された。9月19日（火）鎌倉で葬儀があり、雨の中合唱団関係の受付をさせて頂いた。

学習院OB混声合唱団では先生の１周忌にフォーレの「レクィエム」を指揮野村慎一郎、ソプラノ常森寿子、バリトン末吉利行、学習院OB管弦楽団で行なっている。また３周忌は三石精一の指揮でモーツアルトの「レクィエム」を演奏している。ソリストは全部学習院出身者である。このときもOB管弦楽団に共演してもらった。なおこのコンサートには天皇・皇后両陛下が行幸啓された。そして７回忌にあたる平成６年７月、三石精一の指揮で浜離宮朝日ホールでこのシューベルトの「ミサ 第２番 ト長調」を演奏した。ソプラノ川本愛子、テノール北田篤重、バス淡野太郎、ピアノ原 知子であった。

Ⅰ. Kyrie	あわれみの賛歌
Kyrie eleison.	主よ、あわれみたまえ。
Christe eleison.	キリストよ、あわれみたまえ
Kyrie eleison.	主よ、あわれみたまえ。
Ⅱ. Gloria	栄光の賛歌
Gloria in excelsis Deo.	天のいと高きところには、神に栄光、
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.	地には善意の人に平和あれ。
Laudamus te. Benedicimus te.	われら主をほめ、主をたたえ、
Adoramus te. Glorificamus te.	主をおがみ、主をあがめ、
Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.	主の大いなる栄光のゆえに感謝したてまつる。
Domine deus, rex caelestis, deus pater omnipotens.	神なる主、天の王、全能の父なる神よ。
Domine fili unigenite, Jesu Christe.	主なる御ひとり子、イェズス・キリストよ。
Domine deus, agnus dei, filius patris.	神なる主、神の子羊、父のみ子よ。
Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.	世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。
Qui tollis peccata mundi,	世の罪を除きたもう主よ、
suscipe deprecationem nostram.	われらの願いをききいれたまえ。
Qui sedes ad dexteram patris, miserere nobis.	父の右に座したもう主よ、われらをあわれみたまえ。
Quoniam tu solus sanctus, Tu solus dominus.	主のみ聖なり、主のみ王なり、
Tu solus altissimus, Jesu Christe.	主のみいと高し、イェズス・キリストよ。
Cum Sancto spiritu, in gloria dei patris,	聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。
Amen.	アーメン。
Ⅲ. Credo	信仰宣言
Credo in unum deum,	われは信ず、唯一の神、
patrem omnipotentem.	全能の父を。
Factorem caeli et terrae, visibilium omnium et invisibilium,	天と地、見ゆるもの、見えざるものすべての造り主を。
Et in unum dominum.	われは信ず、唯一の神、
Jesum Christum filium dei unigenitum.	神の御ひとり子、イェズス・キリストを。
Et ex patre natum ante omnia saecula.	主はよろず世より先に、父より生れ、
Deum de deo, lumen de lumine,	神よりの神、光よりの光、
deum verum de deo vero.	まことの神よりのまことの神、
Genitum, non factum,	造られずして生まれ、
consubstantialem patri: per quem omnia facta sunt.	父と一体となり、すべては主により造られたり、
Qui propter nos homines, et propter nostram salutem	主は、われら人類のため、われらの救いのために、
descendit de caelis.	天より下り
Et incarnatus est de spiritu sancto ex Maria virgine:	聖霊によりて、処女マリアよりおんからだをうけ、
et homo factus est.	人となりたまえり。
Crucifixus etiam pro nobis	ポンシオ・ピラトの下にて、
sub Pontio Pilato:	われらのために十字架につけられ、
passus, et sepultus est.	苦しみをうけ、葬られたまえり。
Et resurrexit tertia die, secundum scripturas.	聖書にありしごとく、三日目によみがえり、
Et ascendit in caelum: sedet ad dexteram patris.	天にのぼりて、父の右に座したもう。
Et iterum venturus est cum gloria	主は、栄光のうちに再び来たり、
judicare vivos et mortuos:	生ける人と死せる人とを裁きたもう、
cujus regni non erit finis.	主の国は終ることなし。
Et in spiritum sancutum dominum, et vivificantem:	われは信ず、主なる聖霊、生命の与えぬしを、
qui ex patre, filioque procedit.	聖霊は、父と子よりいで、
Qui cum patre, et filio simul adoratur, et conglorificatur:	父と子とともに、拝みあがめられ、
qui locutus est per prophetas.	また預言者によりて語りたまえり、
Et unam, sanctam, catholicam	われは、一にして聖、普遍の
et apostolicam ecclesiam.	使徒継承の教会を信ず。
Confiteor unum baptisma in remissionem peccatorum.	罪の赦しのためなる唯一の洗礼をみとめ、
Et exspecto resurrectionem mortuorum.	死者のよみがえりと、
Et vitam venturi saecli.	来世の生命とを待ち望む。
Amen.	アーメン。
Ⅳ. Sanctus	感謝の賛歌
Sanctus, sanctus, sanctus, dominus deus sabaoth.	聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主。
pleni sunt caeli et terra gloria tua.	主の栄光は天地に満つ。
Hosanna in excelsis.	天のいと高きところにホザンナ。
Ⅴ. Benedictus	ほむべきかな
Benedictus qui venit in nomine domini.	ほむべきかな、主の名によりて来る者。
Hosanna in excelsis.	天のいと高きところにホザンナ。
Ⅵ. Agnus Dei	平和の賛歌
Agnus dei, qui tollis peccata mundi	神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
miserere nobis.	われらをあわれみたまえ。
Agnus dei, qui tollis peccata mundi	神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
dona nobis pacem.	われらに平安を与えたまえ。

◆東京合唱団出演者

合唱：東京合唱団・学習院 OB 混声合唱団
練習ピアニスト：平野裕樹子

ソプラノ
岩藤　喬子、大塚恵美子、荻野　直美、奥田　秀子、亀山　澄美、小池　直子、坂井田廣子、竹田　貴子、田中　公子、田村　典子、長　　恭子、長尾　由香、並木　邦子、濱野奈津美、前道　恵子

アルト
板倉由美子、稲垣　知子、今溝　惠子、小笠原みどり、梶原　典子、佐々木紀代子、佐藤　京子、瀧来　佐穂、永澤麻衣子、沼口　澄子、花形　由美、藤田　香織、松田　和子、柳原　竜子、山下　貴美、山田　久子

テノール
青田　正平、上野　紘機、上島　　敏、梶川　　浩、岸　　柾文、笹村寛太郎、塩谷　隆英、富松　太基、新岡　香織、前道　伸彦、松本　洋一、宮本　昭彦、吉岡　端也、吉野　健太

バス
青木　修三、荒川　昌夫、安彦　克己、今西　健一、小川　尚夫、奥田　治仁、葛西　英一、久保田　秀、後藤　玲嗣、津守　　滋、広畑　俊成、沼田　盛也、三木　祥史、水谷　次郎、山岡　成行、山口　　和、山中　清孝、山根　　明

◆東京大学アカデミカコール出演者

練習ピアニスト：大島　由里

テノール1
相沢　　隆、青柳　忠宏、一法師昌彦、上野　紘機、沖村　恒雄、小原　義夫、勝部　素行、岸　　柾文、黒住　昌昭、三枝　格一、酒井　雅弘、武田　和夫、田中　敏章、築島　　誠、富松　太基、永野　康雄、新岡　香織、羽原　靖彦、堀内　　靖、松本　洋一、水野　　明、持田　　猛、山口　義人、吉岡　端也

テノール2
青木　修三、青柳　建一、赤羽　正昭、小川　慶治、沖　　明雄、梶川　　浩、梶野　慎一、木戸　純生、黒岩　恭浩、小玉　武司、後藤　玲嗣、斎藤　信一、五月女　勲、笹本　善久、澤田　　茂、進藤　正明、塩谷　隆英、染谷　辰次、高野　　宏、土屋　国雄、中村　充男、中村　晴永、西村　　章、平野　直樹、藤田侊一郎、三木　祥史、宮園　侑也、宮本　昭彦、森下　忠幸、山内　貞次、山本　洋一、吉岡　正人、米村　紀幸

バス
荒川　昌夫、犬塚　奎一、茨木　宏隆、今西　健一、岩永　裕二、岩本　宗孝、打保　元康、大坪　　茂、大橋　正教、大山　哲雄、小笠原光聰、蒲田　順一、川越　和雄、河野　広孝、小林　享一、小林　　務、小山　朝久、酒井　博人、佐藤　　傑、滋賀　秀實、清水　重男、下芝　直樹、中村　　至、長尾　正和、永島　謙介、野口　雄二、野々垣顕彦、広畑　俊成、福田　恒男、松比良伸也、松本　大四、柳川　　榮、山岡　成行、山口　　和、山田　　亮

◆ KMG 管弦楽団

第1ヴァイオリン
◎室谷　高廣、荻野　照子、徳井　えま、松岡　典子、宮川　芳江、眞中　千春

第2ヴァイオリン
清水　醍輝、佐藤　明美、宮林　陽子、坂井　玲子、眞中　望美

ヴィオラ
河合　訓子、光行　澄子、泉　　恵子、原口　朝子、古日山美智代

チェロ
羽川　真介、羽川　恵子、松本　卓以、井崎　瑛恵

コントラバス
桜井　　茂

フルート
白尾　　隆、小山いずみ

オーボエ
小畑　善昭、金子　亜美

クラリネット
恩智　聡子、元木　瑞香

ファゴット
前田　信吉、山上　貴司

ホルン
南　　博之、岡村　　陽、伊勢　久視、元木　智子

トランペット
神代　　修、金城　和美

トロンボーン
藤原功次郎、伊波　　睦、中根　幹太

ティンパニー
藤本　隆文

オルガン
草間美也子

ハープ
三宅　美子

◎はコンサートマスター

ケルビーニの「レクイエム ニ短調」演奏歴（東京大学音楽部コールアカデミー　東京大学アカデミカコール）

- 1960年（昭和35年）12月10日　文京公会堂
  指揮：前田幸市郎、ピアノ：有馬公子（本邦初の全曲演奏）
- 1963年（昭和38年）12月14日　厚生年金会館
  指揮：前田幸市郎、管弦楽：東京大学音楽部管弦楽団　（本邦初のフルオーケストラによる全曲演奏）
- 1969年（昭和44年）11月30日 厚生年金会館
  指揮：前田幸市郎、管弦楽：萩音楽祭管弦楽団
- 1970年（昭和45年）3月3日　グラーツ　ミノリテンザール
  指揮：前田幸市郎、ピアノ：根本幾　（海外演奏：訪欧演奏旅行にてオーストリア・グラーツにて抜粋演奏）
- 1980年（昭和55年）12月22日　郵便貯金ホール
  指揮：前田幸市郎、管弦楽：東京大学音楽部管弦楽団
- 1996年（平成8年）12月10日　東京カテドラル聖マリア大聖堂
  指揮：三澤洋史、ピアノ：小野智子　（抜粋演奏）
- 1998年（平成10年）1月31日　音楽の友ホール（大阪）
  指揮：市木圭介、ピアノ：小野智子　（抜粋演奏）
- 1999年（平成11年）4月25日　人見記念講堂
  指揮：三澤洋史、ピアノ：大島由里　（抜粋演奏）
- 2000年（平成12年）1月23日　ティアラこうとう（東京都江東区）
  指揮：三澤洋史、管弦楽：東京ニューシティ管弦楽団
- 2000年（平成12年）5月28日　大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス
  指揮：井上和雄、管弦楽：オペラハウス管弦楽団　「ANCORの会」第20回記念演奏会合同演奏　（抜粋演奏）
- 2003年（平成15年）9月6日　紀尾井ホール
  指揮：前田幸康、管弦楽：KMG管弦楽団

フォーレの「レクイエムop.48」演奏歴（東京合唱団）

- 1956年（昭和31年）7月11日　日比谷公会堂
  指揮：前田幸市郎、管弦楽：東京交響楽団
- 1962年（昭和37年）6月24日　聖心女学院教会
  指揮：前田幸市郎、オルガン：松本和子
- 1966年（昭和41年）12月4日　東京文化会館
  指揮：前田幸市郎、管弦楽：東京交響楽団
- 1972年（昭和47年）10月27日　東京カテドラル聖マリア大聖堂
  指揮：前田幸市郎、管弦楽：神奈川フィルハーモニー管弦楽団
- 1979年（昭和54年）12月2日　日比谷公会堂
  指揮：前田幸市郎、管弦楽：新日本フィルハーモニー管弦楽団
- 1984年（昭和59年）10月26日　東京カテドラル聖マリア大聖堂
  指揮：前田幸市郎、オルガン：佐藤ミサ子　チャリティーコンサート
- 1998年（平成10年）8月30日　紀尾井ホール
  指揮：前田幸康、管弦楽：KMG管弦楽団
- 2003年（平成15年）9月6日　紀尾井ホール
  指揮：前田幸康、管弦楽：KMG管弦楽団

次回演奏会のお知らせ

東京合唱団

2010年10月30日（土）紀尾井ホール
グノー：聖セシリアの為のミサ・ソレムニス
ヴィヴァルディ：グローリア

2011年
バッハ：ロ短調ミサ（予定）
連絡先：042-421-7242　坂井田

東京大学アカデミカコール

2009年12月12日（土）代々木オリンピックセンター大ホール
東京大学音楽部コールアカデミー定期演奏会賛助出演
團伊玖磨作曲・福永陽一郎編曲：岬の墓（合同演奏）

2010年7月3日（土）東京文化会館
第6回東京六大学OB合唱連盟演奏会
連絡先：090-2564-0423　荒川